

自分らしく、今を生きる女性達のスローライフエッセイ

Essay

ディー・エッセイ

第1回 Rica Shimabukuro

作者プロフィール

1970年造形美術業を営む家庭に生まれる。(株)ジュン アシダでのデザイナーを経て、1995年東京の代官山にオートクチュールのウェディングドレスショップ「Saint Mariage」をオープンする。2003年よりスキルアップのため、お店を閉めて海外へ。南イタリア生活を経て、2005年にスウェーデンへ移住。スウェーデンオートクチュールの職人資格を取得後、スウェーデン国立美術大学テキスタイル科大学院を終了。2009年より自身のサイト「Rosenkrona」を、滞在先のストックホルムで立ち上げる。



<http://www.rosenkrona.com/index.html>

『ゆったりした時間に包まれて』——ストックホルムの夕暮れから——

北欧の冬は、一日の半分以上が真っ暗な夜。外は真っ白な雪に覆われ、室内で過ごす時間が多くなります。

そんな時間を心地よく演出するのが、キャンドルの暖かい光です。キャンドルライトと過ごすお茶の時間は、彼らにとって究極の『mysig(ミッシグ)= 居心地の良い』空間。スウェーデンの人達は、この言葉をこよなく愛しています。その言葉の中には、ノスタルジックな雰囲気ごとく漂っています。ある友人が、「毛布にくるまって、お茶を片手に読書するの。それが一番の『mysig』よ」と言っていたのを思い出します。そんな一人を楽しむ、詩的でゆっくりした時間もいいのかもしれないですね。



ゆっくりとした時間の流れから生まれる冬の食卓は、もっぱらオープンを使った暖かい手料理が主流です。この時期は、豊富な根菜類と自分たちで秋に摘んできたキノコ類を、さくさくと自宅で料理するのがスウェーデン流。

そして、夕食後には、昔から伝わる伝統菓子を作って、家族団らんの時間を楽しみます。お菓子が焼き上がる頃には、焼き菓子の甘い香りが家中を包みます。そんな甘い香りと食卓を囲んでの家族のおしゃべりは、いつまでも尽きません。

友人と過ごす夜は、大人の時間。少しドレスアップして町へ繰り出します。ストックホルムの風景を眺めつつ、エレガントなバーでのひとときは格別です。

そして週末の夜は、自宅を開放してのダンスパーティーで楽しみます。独立したお子さんを持つ彼らの家には空きスペースがたくさんあるため、このような事が出来るんですね。ワインやおつまみなどをそれぞれが持ち寄り、テーブルには魅力的な食材が所狭しと並びます。

そういう場所では、見知った顔もあれば、知らない顔もあります。とはいえ、趣味で集った仲間。すぐに会話も弾み、知らない人同士でもダンスが始まります。シャイなスウェーデン人にとって、ダンスはとても良いコミュニケーションの一部なんです。毎年何組ものカップルが、ダンスを通じて誕生します。

スウェーデン人は幾つになっても恋をしています。そういうトキメキが、人々をいつまでも若くさせる秘訣なのかもしれません。彼らのように、素敵に年を取れたらと思います。

Photo by Rica Shimabukuro

